

地域教育情報誌

中北.com

チュウホク ドット コム

中北教育事務所
教育支援スタッフ

TEL 0551-23-3046

FAX 0551-23-3013



中北の地域社会 (com munity) の心の交流 (com munication) をめざします

Pickup!

田んぼが教室！ 緑の中の学び ～北杜市立武川小学校 5年生の田植え体験～

武川小学校(小松 建 校長)の5年生15名が、地元の団体「ブルーゲート」の皆さんの指導のもと、恒例の田植え体験を行いました。

子どもたちは、初めて乗る田植え機にワクワクしながら、水田を走る体験を楽しみました。機械が稲を植える様子にも興味津々です。いよいよ自分たちの手で植える場面では、泥の感触に歓声が上がります。ブルーゲートの方に教わりながら、一株ずつ丁寧に植えていき、楽しさの中にも真剣な表情です。最後は、自分で植えた苗の成長を見守る看板を手作りし、畦(あぜ)に立てました。秋の収穫を楽しみにしています。

今後は、ブルーゲートの協力のもと、米作りの学びを深めながら水田の管理や収穫も体験します。収穫した米は秋に開催される「米まつり」で販売し、販売活動も学びの一環として取り組みます。毎年、子どもたちの元気な呼びかけで完売するそうです。この一連の体験は、11月の学習発表会で成果として披露する予定です。

今回の田植え体験には、多くの保護者も参加しました。「毎日食べるお米がどうやってできるのか知ることが大切です。いい経験になります。」と話していました。



地域で育てる

「ブルーゲート」は、武川の町おこしに取り組む有志の団体です。市役所職員や農家など、さまざまな職業のメンバーが集まり、「武川愛」を育む活動をしています。武川小の田植え体験には10年程前から関わり、子どもたちが自然に触れながら楽しく学べるよう、授業をサポートしています。

メンバーの一人は「将来農業に興味を持ったり、地域を盛り上げる存在になってくれたらうれしいですね」と話してくれました。

おいしいお米にな～れ

子どもたちは、手で苗を植えながら「おいしいお米に育てほしい」「収穫が楽しみ!」と元気いっぱいに話してくれました。「ご飯、大好き!」「うちのお米は甘くておいしいよ」と笑顔で語る姿も見られました。

全国的に米不足が心配される中ではありますが、子どもたちが心を込めて育てたお米が、秋には無事に実り、家族みんなで味わえることを願っています。



子どもたちが取り組む米作りの活動は、米どころならではの地域と連携した貴重な学びの体験です。

田植えの日、泥だらけになりながら土に触れる子どもたちの姿を、担任の先生と一緒に保護者やブルーゲートの皆さんも温かく見守っていました。自然とふれあうことの大切さを知る地域の大人たちの存在は、子どもたちの健やかな成長を支える“土壌”のように感じられます。

手間と時間をかけて育てる米作りを通して、子どもたちは食への感謝の気持ちを育てていくことでしょうか。まさに、心を耕す学びの時間となったのではないのでしょうか。

Pickup!

図書館発！ふるさとを学ぶ、仕事を学ぶ

～南アルプス市立中央図書館の取り組みより～



南アルプス市立中央図書館は、令和7年度子供の読書活動優秀実践図書館として、文部科学大臣表彰を受けました。左に富士山、右に檜形山が望める、広々とした明るい館内で、館長の石原さんと職員の三枝さんから、表彰につながった取り組みについてお話をうかがいました。



広く明るい館内はゆったりとした空間

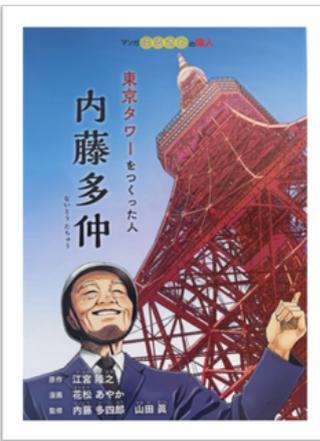


内藤多伸博士の等身大パネル

▷読書の楽しみを育む活動

南アルプス市は現在第4次となる子どもの読書活動推進計画に基づき、図書館活動に力を入れてきました。ボランティアの方々の協力によるおはなし会や、中高生が推薦図書を紹介し合うビブリオバトルの実施、小学校1年生に本を贈るセカンドブックや小中学生へおすすめの本を紹介するサードブックなど、子どもたちが読書の楽しみを実感する取り組みを行っています。

▷ふるさとの偉人【マンガ】×仕事のやりがい【ふるさとゆかりの漫画家】



左の本は、こちらの図書館が製作したマンガです。南アルプス市出身であり、東京タワーを設計した内藤多伸博士の業績や想いをマンガで紹介しています。この本はふるさとの偉人である内藤博士を紹介するだけでなく、原作は江宮隆之さん（富士川町出身）、作画は花松あやかさん（南アルプス市出身）が担当し、ふるさとの魅力にあふれた作品となっています。

さらに、この作品を活かし学校と連携してキャリア教育に結びつけた授業も行われました。白根巨摩中では、昨年度「地域の先輩の生き方に学ぶ」と題し、卒業生である花松さんを講師としてお招きして、自身の漫画家としての仕事のやりがいについて語っていただく授業を実施しました。子どもたちにとって、現在活躍中の大先輩から働くことの楽しさを学ぶ貴重な機会となりました。

また、昨夏図書館を会場に「漫画家 花松あやかさんと学ぶマンガの描き方講座」も開催しました。参加した子どもたちは目をキラキラさせながら、花松さんがマンガを描いているところを間近で見たり、質問をしたりしていたということです。

子どもたちが、マンガという親しみやすい形でふるさとの誇るべき偉人について学ぶと同時に、現在活躍中の大先輩から、直接働くことについて見たり聞いたりできる機会を作り出した図書館。子どもたちにとってふるさとに誇りを持ち、自身の未来についても考えるきっかけとなったことでしょう。

▷新サービスについて聞いてみた

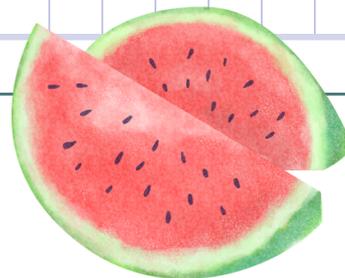
新しい取り組みとして電子書籍を開始しています。パソコンやスマートフォンからいつでもどこでも電子書籍を読むことができるサービスです。市立の小中学生は学校で使用する端末で読むことができます。館長の石原さんは、「気軽に電子書籍を利用してほしい一方、図書館には場所としての魅力もある。ぜひ、図書館にも来て、楽しんでほしい。」と話してくれました。これからの図書館はますますワクワクする場所になっていると取材をして感じました。



Topic

富士見は応援します！！

～富士見支援学校のセンター的機能～



富士見支援学校(雨宮 靖子 校長)は、病弱・身体虚弱児を対象とした病弱特別支援学校です。病気療養中の児童生徒に対して教育活動を行っています。

…でも、それだけではありません。

特別支援学校の「センター的機能」という言葉を聞いたことがありますか？

特別支援学校のセンター的機能とは…

特別支援学校は障害の程度や状態に応じて、学習内容と指導方法を考える専門的な知識とスキルを持っています。その専門性を活かし、支援を必要としている子どもに関して地域の学校の先生方や保護者に指導や助言を行うことを、特別支援学校のセンター的機能と言います。

ここでは、富士見支援学校のセンター的機能をご紹介します。

富士見支援学校のセンター的機能

富士見支援学校は、就学前から高校生までの病弱・身体虚弱、発達障害の二次障害を持つ児童生徒を対象として保護者や先生方のための教育相談や研修を実施しています。

電話相談や来校相談の他、学校に出向いて授業を観察し、様子をつかんで支援会議を行う訪問支援なども行っています。



富士見支援学校

富士見支援学校旭分校のセンター的機能

荏崎に旭分校があります。こちらでは、病気や発達障害の二次障害だけでなく、心身症など心因性

疾患や心に様々な悩みを抱え支援が必要な子どもに対し、支援や情報提供を行っています。



旭分校



このような悩みや心配事に対し、支援方法を一緒に考えます。

- ☆病気を抱えながら学校に行くことが不安
- ☆頭痛や腹痛で学校に行けない
- ☆不安や緊張で集団に適應できない
- ☆落ち着いて授業に参加することが苦手
- ☆友達とのコミュニケーションに悩んでいる

安心していきいきとした学校生活を送るために

互いに認め合い支え合える共生社会を目指して、インクルーシブ教育の実現が求められています。全ての子どもたちが安心して、いきいきと学校生活を送れるよう、それぞれの子どもの状態に応じた配慮とサポートが必要です。

だからこそ特別支援教育においては、「その子の専門家」になることが大切です。

富士見支援学校では、保護者や先生方と一緒に考え、ともに「その子の専門家」となれるように、個々の状態や背景に応じた支援をしています。

～富士見支援学校より～

富士見支援学校では、学校の先生方や保護者の皆さんを応援しています。こんなことでもいだろうかということでもかまいません。困ったらまずはお電話ください。



富士見支援学校以外の特別支援学校も、センター的機能を有しています。それぞれの専門性を活かした支援を受けることが可能です。

詳しくは、右のQRコードから県のHPをご覧ください。

(各学校の対象地域は異なります。県のHPでご確認ください。)



#中北バトン

様々な立場から、子どもたちへの思い、地域への思いを寄せていただきました。

中央市の教育は「まごころ」から

令和7年度中北地区地域教育推進連絡協議会会長
中央市教育委員会 教育長 **石田 秀博 さん**

中央市は、2町と1村が合併してから今年で20年が経ちますが、合併当初から、本市では教育に対する基本は「まごころ」にある、という理念のもと進めています。それは、「生きる力をはぐくむ教育」「命を大切に作る教育」そして「信頼し合う教育」に重点を置くことと言えます。「教育」は人格の完成を目指す営みであり、自らを律しつつ他人と共に協調し、他人を思いやる心や、柔らかな感性を持った感動する心など、豊かな心の育成は学校教育における重要な目標の一つです。価値観の多様化、少子化、核家族化により、人々のつながりや共同体意識の希薄化が顕著となり、人権を尊重する心などの倫理観や、他人と協調しつつ自立的に生き抜く社会性を身につけることが難しくなっている時代だからこそ、豊かな心をはぐくむ教育の推進がより一層強く求められていると考えています。こうしたことから、本市では全ての教育にかかわる活動において「まごころ」を基本とし、本市の「教育」を進めています。

今、日本社会は「人口減少」「少子高齢化」「グローバル化」「多様性とインクルーシブ(包摂性)」「デジタル化(ソサエティ5.0)」等により予測不可能な時代に入ってきており、それらは今後さらに顕著化されるでしょう。将来的には学校での知識の陳腐化が早まり、社会の中で生き抜くには主体的に学び、考え、判断し、行動する資質や能力が必要不可欠となります。しかし、その資質や能力を身に付けるためには、その土台、根底として「まごころ」を理念とした「教育」が重要となると考えています。今、中央市の「教育」は、「不易と流行」を「教育」の実践として取り組んでいるところです。本市で育った子どもたちが、中央市で「教育」を受けてよかった、と「実感」してもらえることを私たちは目指しています。

Interview

キラリ☆まちのひと

「地域を応援する人」を紹介します。

北杜市教育委員 元北杜高校校長の 河手由美香さんにお話を伺いました。

ハピネスリレーで気持ちをつなぐ

韮崎高校などで教員として勤務され北杜高校では校長を務められた河手さんは、教員時代に学んだ地域作りをヒントに、退職後一年となるこの春、韮崎に仲間とスパイスカレー店を始めました。応援を受け取った人が他の誰かを応援してつながることで、地域の人たちが主体的に世の中に関わってほしいという思いが、店には込められています。

店内入り口に掲示されているハピネス応援券には、顔の見えない相手へのメッセージが書かれています。お客さんが少額のお金とともに応援したい人へのメッセージを店に託し、それを読んだ別のお客さんがその応援する気持ちを受け取り、食事の際に利用するというやさしい気持ちの循環システムです。受け取り側の感謝のメッセージも掲示されています。「頑張る若者さんへ あなたの夢を応援します」というメッセージに「地域のためにがんばります!!」と利用した方からのメッセージが寄せられていて、このやりとりを見ている側も笑顔になります。顔も見えない相手へのやさしさで生まれる小さなハピネス(幸せ)が、また次の人へリレーされていきます。

また、店舗を持ってない若者の夢を応援したいと、店内の棚を販売用に貸したり、休業日である平日には店舗を貸したりということもしています。

「人と人とがやさしさでつながる地域でありたい。そんな温かい地域の中で、若者が主体的に世の中と関わりながら成長してほしい。」と笑顔で話す河手さんは、校長退職後も変わらず次世代の成長を温かく見守り背中を押したいという情熱にあふれていました。



紙面を飾ってみませんか

地域教育情報紙『中北.com』は、年6回、奇数月に発行し、中北地区500か所以上に配付しています。

学校や地域、諸団体での様々な取り組みをぜひ取材させてください。

問い合わせは右記まで、お気軽にお声がけください。

令和7年度 『中北.com』 No. 2

編集・発行 中北教育事務所

担当 花形 健一 ・ 江川 みづほ

〒407-0024 韮崎市本町4-2-4

電話 0551-23-3046 FAX 0551-23-3013